

第1回 HiPeR 国際シンポジウム開催報告

平成30年1月25日～29日の期間で第1回 HiPeR 国際シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、インドの有力大学との強力な国際連携関係を構築することを目的とし、HiPeR のメンバーである Presidency University の Ghosh 教授と Bose 教授の協力のもと、Presidency University、Kazi Nazrul University、University of Delhi、Indian Institute of Technology (Bombay 校)、Indian Institute of Technology (Roorkee 校)、Indian Institute of Technology (Kharagpur 校) から18名もの参加者を迎えることができました。広島大学側の参加者を加えると、総勢50名を超えるシンポジウムとなりました。

本シンポジウムでは、主に4つのイベントを通じて上記した目的の達成を目指しました。HiPeR 内の3つの研究グループとの個別セミナー、日印両国の大学院生によるポスター発表会、教員を中心とした研究発表会、それと野外巡検です。25日に行ったポスター発表会では、両国の大学院生が積極的に議論しあう様子が印象的でした。26日に行った研究発表会は1) Continental crustal dynamics、2) Interaction between life, sediment, and environment、3) Earth Deep Interior、4) Young HiPeR talk の4つのセッションで活発な議論がなされました(写真1)。これらポスター発表会と研究発表会を通じて両国の参加者は、現在進めているお互いの研究の共通項を確認することが出来たので、今後の新たな国際共同研究の確固たる出発点になり得たと思っています。また発表会終了後には、“Ice-melting dinner party” と称した夕食会を開催し、院生を含めて個対個の交流を深めることもできました(写真2)。

野外巡検では、HiPeR が研究対象とする「プレート収束域」に形成された「付加体」を構成する岩石を観察しました。27日の早朝に、借り上げたバス1台と大学所有の車2台で、目的地である山口県岩国市と周南市に向かい、見事な層状チャートや高圧型変成岩などを観察しました(写真3、4)。今回観察した「付加体」岩石はインドには存在しません。インド大陸は、日本と異なったタイプの「プレート収束域」の岩石によって形成されています。インドの研究者に異なったタイプの「プレート収束域」岩石を観察してもらい、野外において、その成因などを議論できたこともまた、今後の国際連携にとって大きなプラスになったと思っています。野外巡検後は、湯来温泉に宿泊しました。日本の文化に触れていただく良い機会になったのではないのでしょうか(写真5)。更に帰りには、平和記念公園と平和記念資料館に立ち寄りしました(写真6)。インドからの参加者は全員、非常に興味深く刺激的だったようで、神妙な面持ちをされていました。

当初このシンポジウムは1月24日に開始する予定でした。しかし雪による悪天候のため1日遅れの25日からの開催となりました。23日発のインドからの飛行機が飛ばないとの連絡が入った時には、先行きをとても心配しましたが、こうして無事開催、そして終了できてほっとしています。シンポジウム終了後には、非常に温かいメッセージを含んだお礼のメールが多数送られてきており、このシンポジウムは、今後の強力な研究連携への足がかりとなったと確信しているところです。

最後になりましたが、本シンポジウム開催に大きく貢献していただいた事務職員の方々と関係者の皆様方には、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。尚、本シンポジウムは広島大学からの HiPeR への支援金よって行われました。予算の原資は文部科学省「研究大学強化促進費補助金」です。この支援に対しても、心からお礼を申し上げます。

平成30年2月8日

広島大学インキュベーション研究拠点「プレート収束域の物質科学研究拠点：Hiroshima Institute of Plate Convergence Region Research (HiPeR)」拠点長 井上徹



写真1：口頭発表セッションの様子



写真2：口頭発表セッション後の集合写真



写真3：プレート収束域「付加体」露頭



写真4：野外観察での議論



写真5：湯来温泉での集合写真



写真6：平和記念公園にて